

第2回 松尾・下久堅地区治水事業協議会（水理模型実験視察）

議事要旨

1. 開 会

2. 委員長挨拶

3. 議 事

水理模型実験視察会を終えての意見・感想

- ・ 実際川に出て、体で感じていること、目でみて覚えていることと模型を比べるとよくできていると思う。また、実際の洪水とは違い水が透明な状態で洪水状況をみられたので、土砂が溜まる様子などがよく理解できた。
- ・ 実際の洪水時には流心がものすごくせり上がっていたが、模型では余り感じられなかった。模型の精度はいいと感じたが、小河川がどのように影響をするのか心配である。また、模型の天龍峡の上あたりが少し現場とは違うと感じた。
- ・ 天竜川で水位がH. W. L. を超えるので、松尾の内水排除として何か対策をしなければいけないと感じた。
- ・ 精度のよい模型で研究されるので、我々もそれに追随していきたい。
- ・ 鷲流峡入口上流部での土砂の流れについて、流量が大きく、水深が大きいときには土砂が流れないものの、流量が小さく、水深が小さくなると土砂が移動する様子が理解できた。
- ・ H18洪水を対象とした模型実験では、実際の洪水を目の前で観ている感じであった。
- ・ 模型を観てH18洪水の状況を思い出し、整備計画流量・基本方針流量規模では下久堅側は大変なことになるなど感じた。下久堅堤防建設促進期成同盟会とも話して対応していきたい。
- ・ これまでは目の前の部分的なことしか分からなかったが、模型を通して天竜川全体で洪水時にどのような流れになっているのか、土砂の流れがどのようなになっているのか理解できた。

- ・ 模型では、洪水の後半の水神橋あたりの流れや鷺流峡入口部の状況が忠実に再現できていた。今後の検討では、県立公園であること、また観光面も考慮して検討して頂きたい。
- ・ 洪水時に川ではゴンゴン、ゴツゴツ音がし、この音が聴こえなくなると水に浸かると地元では言われていたが、正に水位があがると同時に土砂が留まるという状況が模型で再現されていた。
- ・ 川路の治水対策が完成し、基本方針流量規模の洪水が来ても耐えるものであると実験で確認できた。天竜橋も新しく架け替えたので、支川・工作物を気にして見させてもらった。また、鷺流峡入口部の土砂の移動や水位の堰上げ状況などが理解できた。
- ・ 三六災やS58洪水を経験しており、洪水対策案を作成し、早く着工して頂きたい。また、鷺流峡の狭窄部が少しでも緩和され水が流れるようになれば、松尾地区の内水被害も軽減されると思う。
- ・ 基本方針流量規模の場合、毛賀沢合流点の松尾地区側で水があふれるかと思ったがそのような状況ではなかったのよかった。下久堅地区側では堤防整備が必要であると感じたが、川路・龍江・竜丘地区といった下流への影響は少ないと思った。一方で、どのようなメリットがあって堰上げ現象を解決するのかよくわからなかった。
- ・ 鷺流峡狭窄部を広げてどの程度の効果があるかは、現段階ではよくわからない。また、松尾側の堤防が崩れると浸水という程度ではなく濁流に突き飛ばされるような感じになると思っているので、天竜川本川の統制のある管理をお願いしたい。
- ・ いろいろな対策の仕方があると思うが、今考えられる選択肢のなかで、国民の税金を使うこともあり合理的で皆が納得するような方法は何かを探っていかなければならない。

(順不同)

4. 閉 会